

(2) 「単元で学ぶ」授業改善 実践事例

イ 実践事例2 第5学年 「伝記を読んで『すごい』を伝えよう」

(教材 「手塚治虫」東京書籍 5年下)

○実践校における課題の焦点化

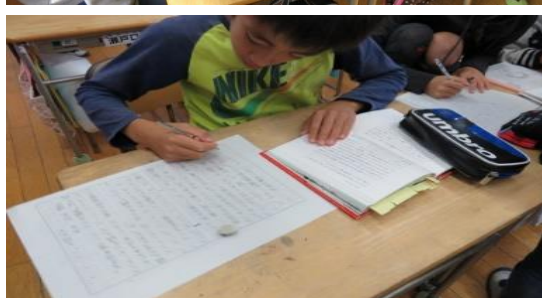
「記述式の問題に無解答が多いこと」
「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」

○課題の解決に向けて必要な力

「求められた様式に合わせて書く力」
「文章を読んで自分の考えを書く力」

○課題の解決に向けた具体的な手立て

- [手立て1] 「宮沢賢治」のモデル感想文を提示し、「書き技」を見付け、参考にさせる。
- [手立て2] 自分の考えを書くことへの抵抗を減らすために、スモールステップで手立てを打つ。
- ・「宮沢賢治」のモデル感想文での学びをマイ感想文につなげる。
 - ・読み取りの視点(『すごい』を見付ける視点)と、感想をもたせるための視点(自分と結び付ける視点)を明確にさせる。
 - ・語彙を広げるために、「ことばの資料」を活用させる。
- [手立て3] 単元を通した言語活動として、「モデル感想文を参考にしてマイ感想文を書こう」を位置付け、学習読書を促す。
- [手立て4] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、一人学びとグループ学びを設定する。
- [手立て5] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。



第5学年 実践事例

- 1 単元名 伝記を読んで『すごい』を伝えよう
～モデル感想文を参考にしてマイ感想文を書こう～

教材 「手塚治虫」 (東京書籍 5年)

2 単元について

(1) 児童観

本学級児童の国語授業に関するアンケートでは、「あなたは国語の授業が好きですか？」という問いに対し、81.8%の児童が「好き」「まあまあ好き」と答えている。内容別にたずねても、漢字・言語の学習や文学的な文章の学習を好む児童が多い。また、読書を好む児童が多く、休み時間には熱心に読書活動に励む児童の姿は多くみられる。

しかし、国語や読書を好む児童が多い一方、4月に行われた学習状況調査の本校5年生の傾向を見ると、無解答率の高さが気になる。実際の調査の様子を観察すると、自分の考えを書いたり、条件に合わせて書いたりする記述式の設問に対して、途中で書くことをあきらめたり、最初から書こうとしなかったりする児童の姿も見られた。5年生の設問の中で一番無解答が多かった問題は、物語のおもしろさを条件に沿って友達に紹介する記述式の設問であった。また、誤答の26.7%の児童についても、きちんと理由を挙げて感想を述べることができていなかった。

3の三	教材文「赤いろうそく」 新美南吉	
出題の趣旨	「文章の中心に気を付けて読み、理由を挙げて感想を述べる」	
正答 53.4%	誤答 26.7%	無解答 19.8%

確かに、読書感想文を苦手とする児童は多く、夏休みの課題に多数の児童が戸惑っていた。そこで、2学期「注文の多い料理店」を学習した後、「宮沢賢治」を読ませ、原稿用紙1枚程度で感想文を書くという学習を設定した。ほとんどの児童が、原稿用紙1枚程度は、書いたものの、いくつかの事実描写を取り上げて並べているだけの文章や、印象深く残った行動描写を「すごい」という言葉のみで表現している文章が多数見られた。「もし、自分だったら…」とか「自分も同じようなことが…」など、自分の考えや思いとつなげて書いている児童は18%にとどまった。

以上のことから、本学級の児童は、課題に対して書こうという意欲はあるものの、伝記をどのように読み、どのように感想文を書けばよいのかを理解していないことがうかがえる。また、自分の考えや思いを表現するための語彙力が、まだ十分に備わっていないともいえる。

(2) 教材観

教材「手塚治虫」は、漫画家手塚治虫の生き方を取り上げた伝記である。伝記を初めて学習する子供にとって、アニメ「鉄腕アトム」などの作者である手塚治虫の生き方を学ぶことで、伝記に興味をもつことが期待できる。また、5つの章から成り、時系列に記述されているので、子供たちに

は理解しやすい文章構成といえるだろう。更に、取り上げられている出来事には、手塚治虫の漫画への情熱と努力が表れているものが多い。また、いじめ体験など子供が自分と関係付けて考えやすい事柄も取り入れられているので、子供たちが自分を見つめ直し、自分の生き方について考える言語活動を行うのに適した教材といえるだろう。

(3) 指導観

本単元では、伝記を読んで対象人物の『すごい』と思った事実描写や説明を取り上げ、感想文を参考にしながら自分にしか書けないマイ感想文を書く活動を、単元を通した言語活動として位置付ける。具体的な手立てとして、

① モデル感想文を提示し、「書き技」を見つけてまとめさせる。

まず、マイ感想文を書くためには、良い感想文について知ることが大切である。そこで、5種類のモデル感想文を提示し、児童に、モデル感想文の中の構成や表現の工夫、真似してみたいことを見付けさせる。それを「書き技」としてまとめていくことで、児童全員がどのように書けばよいかを共有することができるかと期待した。

② 教材文を俯瞰的に読み、自分が考える『すごい』を見付け出させる。

対象人物の経歴を順に追って読んでいくのではなく、全文を通して自分が『すごい』と思った対象に付箋を付けさせていく。『すごい』を見付ける視点として、対象人物の業績・行動・考え・残した言葉・エピソード・周りの人との関わり・周りへの影響・作品・生き方などを話し合っただけで決めた。付けた付箋を取捨選択しながら、自分の考えや思いとつなげさせていった。

③ 自分の考えを明確にもたせる。

モデル感想文を基に、対象人物と自分を結び付ける視点を話し合わせた。自分はどうか、自分だったらどんな行動をするか、自分が学んだことは何かなど、自分と比較したり、置き換えたりすることで、具体的な自分の思いや考えを明らかにさせていった。

④ 本教材を学習後、自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書かせる。

学級文庫に伝記の本を揃え、学習読書を推進した。「手塚治虫」の学習後、自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書く学習を行い、感想文を書く力を高めることができると考えた。モデル感想文を参考にしながら感想文を書く方法を「知って」「使って」「活用する」単元計画を立てることで、感想文の学習方法を習得することができるかと考えた。

⑤ 「ことばの資料」や国語辞典を活用させる。

自分の考えや思いを適切に表すことができるように、「ことばの資料」や国語辞典を手元に置いて学習を行った。これらを使いながら、自分の考えや思いに一番近い「ぴったり合う言葉」を考える活動を取り入れることで、語彙力の向上を図った。

このような指導の視点をもって、マイ感想文を書く活動を行うことで、課題であった「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」の解決を目指した。この学習を通して、児童に「様式に合わせて書く力」が身に付いたことを自覚させ、感想文を書くことに自信を持たせたいと考えた。

3 単元の目標

◎対象人物の生き方に対する自分の考えを明確にもち、感想文を書くことができる。

○伝記の特徴を理解し、事実や意見などを押さえて読み取ることができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力
・進んで伝記を読み、マイ感想文作成に意欲的に取り組もうとする。	・伝記を俯瞰的に読み、対象人物の『すごい』と思う事実記述や説明を見付けることができる。	・伝記に描かれた対象人物の行動や生き方と自分の経験や考えを結び付けて感想を書くことができる。

5 指導と評価の計画(全8時間)

次	時間	学習内容	指導上の留意点	評価規準【 】と評価方法()
一	1	○学習の見通しを持つ。 ・伝記について知る。 ・学習のゴールの姿を知り、モデル感想文から感想文をかくための「書き技」を見付ける。	・さまざまな人物の伝記を用意し、伝記への興味を持たせる。 ・5種類のモデル感想文を提示し、感想文を書くときに取り入れたい視点を見付けさせる。	【関・意・態】 ・モデル感想文を読み、感想文の「書き技」を意欲的に見付けることができる。 (行動観察)
	2	○伝記「手塚治虫」に出会う。 ・新出漢字や難しい言葉の意味調べをする。	・時代の違いで分かりづらい言葉は、事前に例示し、その中から選択して意味調べをさせる。	
二	3	○教材「手塚治虫」を読む。 ・「手塚治虫」の『すごい』と思う事実描写を見付ける。	・5つの章の内容の大体を確認し、自分が『すごい』と思う事実描写等に付箋を付けさせる。	【読】 ・「手塚治虫」の生き方を概ね理解し、『すごい』と思う記述を取り上げることができている。 (ワークシート・発言)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> (『すごい』を見付ける視点) 業績・行動・考え・残した言葉・エピソード・周りの人との関わり・周りに与えた影響・作品・生き方 </div>			
	4	○「手塚治虫」の『すごい』と思う事実描写と自分を結び付けて考える。	・取り上げた『すごい』記述と自分の考えを結び付ける視点を与えて、感想を書かせる。	
5	○「書き技」を使って、感想文を書く。 ・原稿用紙1枚程度で書く。	・モデル感想文を参考にして、字数など共通の「書き技」を確認する。		


	<ul style="list-style-type: none"> ・常体か敬体かを揃える。 ・構成 (はじめ) ~な人 (なか) 事実描写+自分の考え (おわり) これからの自分 <p>6 ○友達のマイ感想文の「書き技」を見付ける。</p> <p>○次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに「ぴったり合う言葉」を使えるように、資料や国語辞典を活用するように助言する。 ・感想文を書き上げるのに掛かる時間には個人差が出るため、書き終わらなかった児童には、個別指導を行う。 ・グループで友達のマイ感想文を読み合い、「書き技」を効果的に使っている部分を見付け、付箋を付けさせる。 ・自分が選んでいる伝記を確認する。 	<p>【読・書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手塚治虫」の生き方を通して自分を見つめ直して、自分の考えを明確にもつことができている。 (ワークシート) <p>【関・読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の子どものよいところ「書き技」を意欲的に見付けることができる。 (行動観察・付箋)
三	<p>7 ○自分が選んだ伝記でマイ感想文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①『すごい』と思ったところに付箋を付ける。</p> <p>②その事実描写に対して、自分を結び付け、自分の考えや思いを書く。</p> <p>③②の内容から、対象人物が【~な人】かを考える。</p> <p>④大まかな構成を考えて、原稿用紙に書く。</p> </div> <p>8 ○3人グループで感想文の発表会を行う。</p> <p>○クラス全員の感想文集を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「手塚治虫」の感想文をどのような手順で書いたのかを確認する。 ・自力でマイ感想文が書けるように励まし、「ことばの資料」を使って「ぴったりの言葉」を探すように促す。 ・小人数で発表会を行い、「書き技」が効果的に使われているところに付箋を付けて、「ほめほめカード」に記入させる。 ・「ほめほめカード」を基に交流させ、互いの良さを認め合わせる。 ・感想文集の最終ページに、単元を振り返って、学んだことを記述させる。 	<p>【読・書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ対象人物の業績や行動などから生き方を読み取り、自分と結び付けてマイ感想文を書くことができる。 (ワークシート) <p>【関・読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の子どものよいところ「書き技」を意欲的に見付けることができる。 (行動観察・付箋)

第5学年 実践事例(1時目)

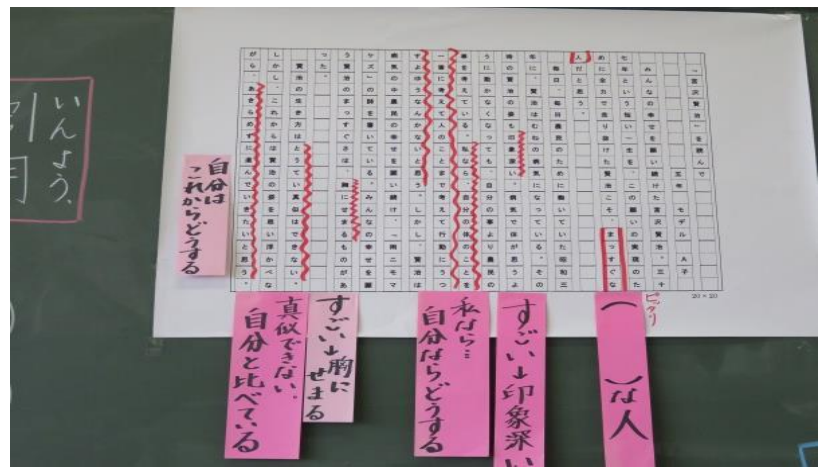
1 本時の目標

モデル感想文を読み、感想文を書くための「書き技」を見付けることができる。

2 本時の展開(全8時間 本時1/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
<p>1 伝記について知る。</p> <p>2 単元の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○プレゼンテーションで様々な分野の伝記を紹介し、偉大な業績を残した人の一代記が伝記であることを知る。また、最近では亡くなっていない人でも伝記として書物化されていることを知らせる。</p> <p>○単元の学習課題を知らせ、担任が考えているゴールの姿を示す。</p>
<p>伝記を読んで『すごい』を伝えよう ～モデル感想文を参考にして、マイ感想文を書こう～</p>	
<p>3 モデル感想文を読み、感想文を書くための書き技を見付ける。</p>	<p>○教室に用意した伝記文庫を紹介し、教材「手塚治虫」と自分で選んだ伝記の感想文を書くことを知らせる。</p> <div style="text-align: center;">  <p>教室に設置した「伝記文庫」</p> <p>学校図書館＋公立図書館＝ 200冊程度</p> </div> <p>○モデル感想文を5種類準備し、じっくり読ませる時間を確保する。モデル感想文は、既習学習「注文の多い料理店」の感想文とする。「宮沢賢治」の感想文は、「注文の多い料理店」の学習終了時に、児童も書いているので、書き技を見付けやすいと考える。</p>
<p>《めあて》 「宮沢賢治」のモデル感想文を読み、「書き技」を見付けよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Aのモデル感想文に使われている「書き技」を考える。(クラス学び) ・ 児童の意見 	<p>○Aのモデル感想文から、うまいと思った表現や真似してみたいところを見付け出させ、「書き技」とすることを知らせる。</p>

- ・「はじめ」に、()
な人と書いてある。
- ・『すごい』ではなく、別の言葉が使っている。
- ・自分なら、どうするかが書いてある。
- ・自分と比べて書いてある。



モデル感想文Aから見付け出した「書き技」

- ・モデル感想文B・C・D・Eの「書き技」をグループで話し合いながら見付けていく。(グループ学習)



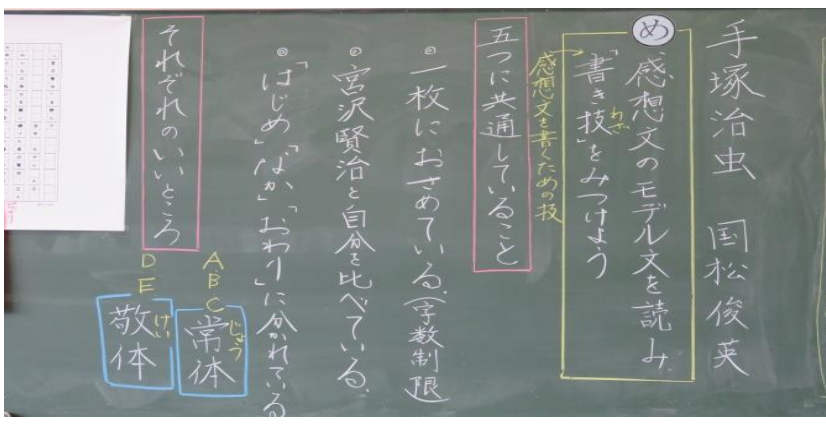
- みんなで見つけたAのモデル感想文の「書き技」をもとに、B・C・D・Eのモデル感想文の書き技をグループで話し合いながら、見付けさせる。
- グループで見つけた「書き技」は、「書き技」ごとに紙に書かせ、拡大したモデル感想文に貼って行かせる。



各グループで見つけた「書き技」

- 4 感想文の「書き技」をまとめる。

- 各グループの「書き技」を掲示し、いろいろな「書き技」を使って、事実描写と自分の考えを結び付けていることを押さえる。



<p>5 次時に教材「手塚治虫」を読むことを知らせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 原稿用紙1枚程度にきちんとおさまっている。 ② 「はじめ」「なか」「おわり」に構成されている。 ③ 常体か敬体か揃っている。 ④ 事実描写に対して自分の考えを明記している。</p> </div> <p style="text-align: center;">モデル感想文から共通して見付け出し、まとめた「書き技」</p>
---------------------------------	---

3 本時の評価

評価規準	5種類のモデル感想文から「書き技」を意欲的に見付けることができる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
モデル感想文から感想文を書くために「書き技」をグループで協力して見付けることができるか。	グループ(4人)で意見を出し合いながら、事実描写と自分をどのように結び付けているか、「書き技」を見付け出し、意欲的に板書作業を行っている。	グループ(4人)で意見を出し合いながら、「書き技」を見付け出し、意欲的に板書作業を行っている。	<p>話合いに参加できない児童 友達の意見を聞いてワークシートに書くことで理解するように助言する。</p> <p>話合いが滞っているグループ モデル感想文Aの板書を参考に同じ「書き技」を探すように助言する。</p>
評価の方法	発言・広用紙の記述・振り返り・行動観察		



1時目の板書

第5学年 実践事例(2時目)

1 本時の目標

教材文「手塚治虫」に出てくる新出漢字や難しい言葉を調べ、理解することができる。

2 本時の展開(全8時間 本時2/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 教材文「手塚治虫」に出会う。 (時間：15分程度)	○電子黒板の音声教材を使用し、教材文を読んでいく。難しい漢字や難しい言葉をチェックしながら読み進めるように事前に指示を出す。
2 本時のめあてを知る。	
《めあて》教材文「手塚治虫」に出てくる難しいことばの意味を国語辞典で調べよう。	
3 意味調べをする。 (一人学び)	○一人一冊の国語辞典を持たせる。 ○難しい言葉を見付けることが困難な児童もいるため、時代の違いで分かりづらい言葉(戦争用語)や難しいと思われる言葉を黒板に板書する。自分で言葉の意味を説明できるようにする。 《学校の国語辞典に そのままでは載っていないもの》 ○「大目玉をくろう」 「大目玉」の「大」はその程度を表現している言葉なので、「目玉」を調べるように助言する。 ○「奮い起こす」 「奮い」…を探していくと、同義語「奮い立つ」＝「奮い起こす」と明記してあるため、「奮い」で探すように助言する。
4 学習を振り返る。 ・国語辞典の引き方 ・難しいことばの理解	○2つの項目で今日の学習を振り返らせる。

3 本時の評価

評価規準	難しい言葉を国語辞典で調べ、理解することができる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
難しい言葉を国語辞典で意欲的に調べているか	ワークシート(意味調べ11個可能なもの)に、難しい言葉を選び、意欲的に意味調べを行い、的確な意味を選ぶことができる。	ワークシート(意味調べ11個可能なもの)に、難しい言葉を選び、意味調べを自力で行うことができる。	個別支援 言葉が載っているページ近くまで一緒に探し、最後は自力で見付けさせる。
評価の方法	ワークシート・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例(3時目)

1 本時の目標

教材文「手塚治虫」の内容の大体を読み、『すごい』と思う事実描写を見付けることができる。

2 本時の展開(全8時間 本時3/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 教材文「手塚治虫」が5つの章に分かれていることを確認する。 2 本時のめあてを知る。	○ワークシートに5つの章の小見出しを書かせ、各章の時代の対象人物の年齢を想像させる。伝記は、誕生から亡くなるまでの経緯について書いてあることが多いことを知らせる。
《めあて》教材文「手塚治虫」を読み、自分が『すごい』と思う事実を見付けよう。	
3 教材文「手塚治虫」を読む。 ・付箋を付ける	○『すごい』と思う事実描写に付箋を付けさせる。 ○数多く付ければよいというものではなく、ある程度厳選して付箋を付けていくように助言する。 ○付箋を付ける視点を提示する。
【付箋を付ける視点】 ・行動(したこと)・考え・残した言葉・周りの人との関わり・周りに与えた影響 ・作品・生き方 など	
4 自分が見つけた『すごい』を3～5程度に絞り、ワークシートに記入する。	○ワークシートに書く場合は、内容を要約して書かせる。 教材文の記述をそのまま書き写してもよい。 ○特に『すごい』と思った事実描写を1つ選んで色画用紙に書かせ、全員分を黒板に掲示する。
5 友達を選んだ『すごい』を知る。	○人それぞれに『すごい』と思う見方が違うことを認め合う。
6 学習を振り返る。	○『すごい』と思う事実描写を選び、付箋を付けることができたか、それを要約してワークシートに記入することができたかについて自己評価させる。

3 本時の評価

評価規準	「手塚治虫」の人生を読み、『すごい』と思う事実描写を見付けることができる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
『すごい』 と思う事実	本文の内容を正確に読み取り、『すごい』と思える	『すごい』と思える事実描写を選び、ワークシートに	・付箋を付けていない児童への手立て

をワークシートに書いているか。	事実描写を的確に選んでワークシートに明記している。	明記している。	事実描写の例をいくつか挙げ、選択させる。
評価の方法	ワークシート・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例(4時目)

1 本時の目標

教材文「手塚治虫」の『すごい』と思う事実描写と自分の思いや考えを結び付けることができる。

2 本時の展開(全8時間 本時4/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達がどんどころに『すごい』と思っているかを確認させる。 ○モデル感想文を提示し、事実描写だけが書かれているのではないことに気付かせる。 ○事実描写だけでなく、自分と結び付けて書くことで、自分の思いや考えがより伝わることを話し合わせる。
2 本時のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> <p>《めあて》 「手塚治虫」の『すごい』を自分と結び付けて考えよう。</p> </div>
3 自分とどのように結び付けるかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分と結び付ける「書き技」をモデル感想文から確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【自分と結び付ける方法】</p> <p>①自分と比べる</p> <p style="padding-left: 20px;">モデルA 「私なら…」 「とうていまねできない。」</p> <p style="padding-left: 20px;">モデルB 「～。これは自分にできそうにない。」</p> <p style="padding-left: 20px;">モデルC 「私だったら…」 「もしも家族だったら…」</p> <p style="padding-left: 20px;">モデルD 「私もまわりに優しくしようと思いますが…」</p> <p style="padding-left: 20px;">モデルE 「私だったら…」</p> <p>②これからの自分</p> <p style="padding-left: 20px;">モデルA・B・C・D・E</p> <p style="padding-left: 40px;">「賢治のように… ～になりたい。」</p> <p style="padding-left: 40px;">「賢治のメッセージを受け止め、～していきたい。」</p> </div>
4 自分が見つけた『すごい』と自分を結び付けたコメントを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○支援を必要とする児童のワークシートを使って、クラスみんなでどのように自分と結び付ければよいかを考えていく。 ○付箋に書き込み、ワークシートに貼り付けさせる。
5 友達と感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達がどのように事実描写と自分を結び付けているかを確認させる。
6 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○結び付け方が理解できたか、自分が見つけた『すごい』と結び付けることができたかを自己評価させる。

3 本時の評価

評価規準	『すごい』と思う事実描写と自分を結び付けることができる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
事実と自分を結び付けたコメントが書けているか。	自分と結び付ける「書き技」を理解し、自力で付箋に自分と結び付けたコメントが書けている。	モデル感想文の中の「書き技」を真似しながら、自力で付箋に自分と結び付けたコメントが書けている。	『すごい』と思った事実描写に対して、「書き技」を1つずつ紹介しながら、コメントが書けそうなものを探させる。
評価の方法	ワークシート・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例(5時目)

1 本時の目標

モデル感想文を参考にしながら、教材文「手塚治虫」のここが『すごい』と思う行動や生き方と自分の経験や考えと比べながら、感想文を書くことができる。

2 本時の展開

過程	学習活動	指導・支援および評価
つかむ 見通す	1 前時の授業を想起する。	○前時に学習したモデル感想文を参考にしたい「書き技」について振り返らせ、その活用の意欲を喚起する。
		○ワークシートから、自分が取り上げている事実とそれに対する自分の考えや思いを確認する。
書く	2 本時のめあてを確認する。	

《モデル感想文を参考にしたい「書き技」》

- ① 原稿用紙1枚程度
- ② 常体か敬体かそろえる。
- ③ 構成を「はじめ」「なか」「おわり」とする。
 - ・「はじめ」 ~な人
 - ・「なか」 教材文の事実描写+自分の考えや思い
 - ・「おわり」 手塚治虫の生き方から学んだこと

《めあて》 手塚治虫の『すごい』と思った事実と自分の考えや思いをつなげ、自分にしか書けない感想文を書こう。

<ul style="list-style-type: none"> ・モデル感想文を参考にして感想文の構成を知る。 ・「ことばの資料」の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を原稿用紙1枚に見立て、「はじめ」「なか」「おわり」に何を書けばよいかを視覚的に示す。 ○具体的例を示し、自分の思いに「ぴったり合う言葉」を見
--	---

ふりかえる	<p>を知る。</p> <p>3 マイ感想文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイ感想文作成 (一人学び) <p>4 友達の作品を読みながら本時を振り返る。</p>	<p>付けるために資料や国語辞典を使うように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書き出しに戸惑う児童は、モデル感想文A～Eを真似して書いてもよいことを伝える。 ○児童の活動状況をみて、書き進められない児童には個別支援を行う。 ○レディネス調査結果から、自力で感想文が書けないと予測される児童に対しては、自分の思いや考えのところだけでも自力でかけるように穴あきの感想文を用意しておく。 ○本時に書いた友達の作品(未完成でも可)を電子黒板に提示し、事実描写と自分の思いや考えを結び付けている部分を見付けさせる。 ○次時までマイ感想文を仕上げ、友達の作品のよいところを見付けあう活動をすることを伝える。
-------	---	---

3 評価計画

項目	評価規準	A よくできる	B 概ねできる	C 手立て	評価の方法
評価	手塚治虫が取った行動や言った言葉を取り上げて、自分の考えを明確に持つことができる。	手塚治虫の『すごい』と思った事実と自分の考えや思いをつなげて、自分にしかかけないマイ感想文が書けている。 モデル感想文を参考にしながら、「書き技」を効果的に使い、資料等を活用できている。	手塚治虫の『すごい』と思った事実と自分の考えや思いをつなげて、マイ感想文が書けている。	児童のワークシートを使って、マイ感想文の書き方を確認する。 書けないと予想される児童には穴あきの原稿用紙を用意しておく。 作業が滞っている部分の書き出しを例示し、続きを考えるように声を掛ける。	感想文

第5学年 実践事例(6時目)

1 本時の目標

友達の「手塚治虫」の感想文の「書き技」を見付けることができる。

2 本時の展開(全8時間 本時6/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時に書いた「手塚治虫」	○何に気を付けて書いたかを再確認する。

<p>の感想文をどのようなところに気を付けて書いたかを確認する。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙1枚程度 ・常体か敬体かをそろえる。 「はじめ」 ～な人 「なか」 自分と結び付ける 「おわり」 自分が今後どうしていくか など
<p>《めあて》 友達の感想文を読み、「書き技」を見付け、よさを伝え合おう。</p>	
<p>3 友達の「書き技」を見付ける。 (グループ学び)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ別に、感想文の交換読みをさせる。 モデル感想文の「書き技」見付けの活動を想起させ、友達の感想文の「書き技」を見付けさせる。 ○見付けた「書き技」のよさを付箋に書き、グループで交流させ、互いに認め合う。
<p>4 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の「書き技」を見付けることができたかを自己評価し、取り入れたいと思った友達の「書き技」を記述式で書かせる。
<p>5 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次時は、自分が選んだ伝記の本でマイ感想文を書くことを伝え、どんな伝記を選んでいるかを確認する。 ○『すごい』と思った部分に付箋を入れた状態で本を準備しておくことを指示する。

3 本時の評価


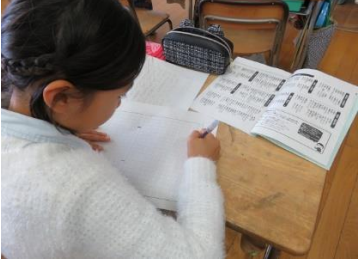

評価規準	友達のマイ感想文を読んで、友達の「書き技」を見付けることができる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
友達の感想文に「書き技」を記入できているか。	読んだ友達の感想文にそれぞれ「書き技」を見付け、記入することができる。	読んだ友達の感想文のうち、1枚でも「書き技」を見付け、記入することができる。	「自分」とか「私なら」など自分と結び付けるキーワードを教え、「書き技」を見付けやすい助言をする。
評価の方法	感想文・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例(7時目)

1 本時の目標

自分が選んだ伝記でマイ感想文を書くことができる。

2 本時の展開(全8時間 本時7/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 本時のめあてを知る。	○選んだ伝記(対象人物)の『すごい』と思う部分を確認させる。
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>《めあて》 自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書こう。</p> </div>	
2 書く手順を確認する。	○「手塚治虫」の感想文を書いたことを思い出させながら、活動を確認させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>「マイ感想文」の手順</p> <p>① 『すごい』と思った部分に付箋を入れる。</p> <p>② その事実描写と自分の考えや思いを結び付ける。</p> <p>③ 『すごい』と思った内容から 「～な人」の言葉を考える。《資料参照》</p> <p>④ 大まかな構成を考えて 原稿用紙に書く。</p> </div>
<p>「すごい」と思ったところに付箋を入れる児童</p>	
3 マイ感想文を書く。	○書き方が理解できている児童は、①→④に進んで自力で書かせる。
	○自分の思いや考えに「ぴったり合う言葉」を使えるように資料を活用するように声を掛ける。
<p>「ことばの資料」を活用する児童</p>	
5 マイ感想文を推敲する。 (一人学び・グループ学び)	○「手塚治虫」の感想文で共通理解している「書き技」を提示し、マイ感想文を自力で推敲させたり、友達と読み合って推敲させたりする。
	
6 学習を振り返る。	○感想文を書く手順に沿って活動することができたか、自力でマイ感想文を書くことができたかを自己評価させる。

3 本時の評価

評価規準	自分が選んだ伝記で 「マイ感想文」を書くことができる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況	努力を要する状況の児童


		(B)	への支援(C)
学習をいかしてマイ感想文を書くことができるか。	「書き技」を使って、マイ感想文を書いている。	対象人物の生き方に対する自分の考えを明確にもってマイ感想文の中に明記している。	自分と対象人物を結び付けた内容を1つでも入れるように助言する。(対象児童に合わせたモデル感想文を提示する)
評価の方法	感想文・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例(8時目)

1 本時の目標

友達のマイ感想文を読み、単元を通して学んだことを理解することができる。

2 本時の展開(全8時間 本時8/8)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
<p>1 本時のめあてを知る。</p>  <p>発表会の練習をする児童</p>	<p>○ マイ感想文の音読の練習をさせる。</p> <p>○ 「書き技」に着目させ、一般化を図るための手立てとして、聞き手にも、読み手にも「書き技」を書いた札を用意し、マイ感想文に「書き技」が使われていたら、札を上げるようにする。</p>
<p>《めあて》 グループでマイ感想文発表会をし、クラスの感想文集を作ろう。</p>	
<p>2 3人グループで発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイ感想文の発表をする。 ・互いに「ほめほめカード」に、表現のよさを賞賛する言葉を書き合う。 ・付箋を友達の下原稿に貼る。 	<p>○お互いの声が届くように、三角形に机を寄せて発表会を行う。それぞれの発表が終わったら、「ほめほめカード」を書かせる。</p> <p>○ほめほめカードには、本単元の目標である「人物の生き方に対する自分の考えを明確にもつこと」が達成できているかを評価する内容になるように伝える。</p>
<p>3 クラスの感想文集を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を読む。 	<p>○全員分のマイ感想文を用意し、感想文集を作成させる。</p> <p>○友達の「書き技」を見付けながら、友達の作品を読む時間を確保する。</p>
<p>4 感想文集の最終ページに</p>	<p>○「手塚治虫」と自分が選んだ対象人物のマイ感想文を書いた単元</p>

学習を振り返って、感想を書く。	を振り返って、「できるようになったこと」「学んだこと」を文章で記述させる。
-----------------	---------------------------------------

3 本時の評価

評価規準	単元を振り返り、感想文を書くにあたって学んだことを理解できる。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
単元を振り返って学んだことを記述できる。	感想文を書く際に、書かれている事実描写と自分を結び付けながら書くとよいことに気づいている。	感想文を書く手順など学習した内容を記述できている。	教室掲示やワークシート集などを振り返って、学習した内容を示す。
評価の方法	振り返り(文章)		

時間	学習内容	学習の見通しを持つ
一	伝記について、学習の見直しをもつ。	ひまわり名人の伝記を読み、伝記の特徴をつかき、学習の見直しをもつ。
二	教材「手塚治虫」に出会う。	「一」の伝記「手塚治虫」の文章を読み、新登場人物の役割を調べる。
三	教材「手塚治虫」手塚治虫の一生の軌跡を調べる。	各章に分かれていっしょに読書をする。
四	教材「手塚治虫」手塚治虫の夢を調べる。	その中から「手塚治虫」の夢について調べ、その夢が実現したか調べる。
五	教材「手塚治虫」手塚治虫の夢を調べる。	「すごい」と思った言葉を、自分の考えや思いと結び付け、感想文を書く。
六	教材「手塚治虫」手塚治虫の夢を調べる。	モデル文や「すごい」の言葉を参考に、マイ感想文を書く。
七	自分が選んだ伝記で感想文を書く。	小グループで話し合い、「すごい」の言葉を調べる。その中で、自分の考えや思いと結び付け、感想文を書く。
八	感想文を読み合い、発表する。	学んだ手順で、自分でマイ感想文を書く。

裏表紙「学習の見通しを持つ」とう



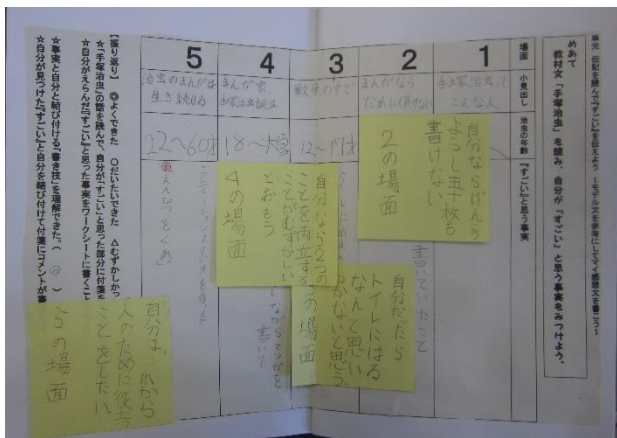
表紙

女性	男性
高橋用子	日本人
	外国人

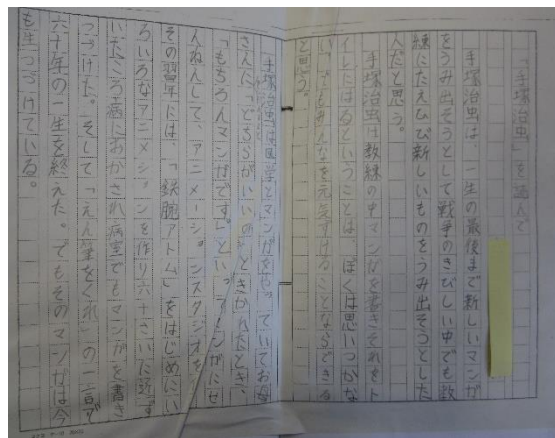
1 時目 「モデル感想文を読んで『すごい』を見付けよう」

源	169	171	172	173	174	175	176	177	178	179
源	源	源	源	源	源	源	源	源	源	源
源	源	源	源	源	源	源	源	源	源	源

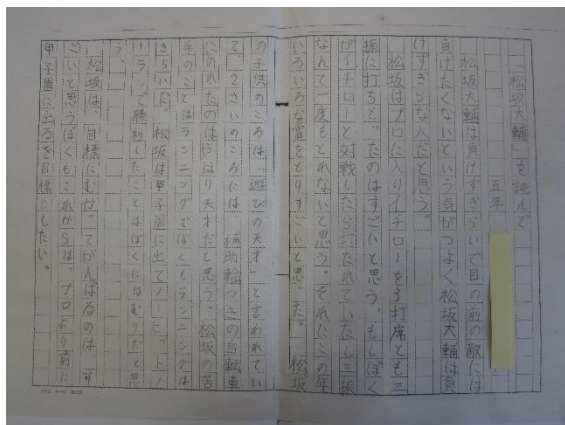
2 時目 「難しい言葉や分かりにくい言葉を国語辞典で調べよう」



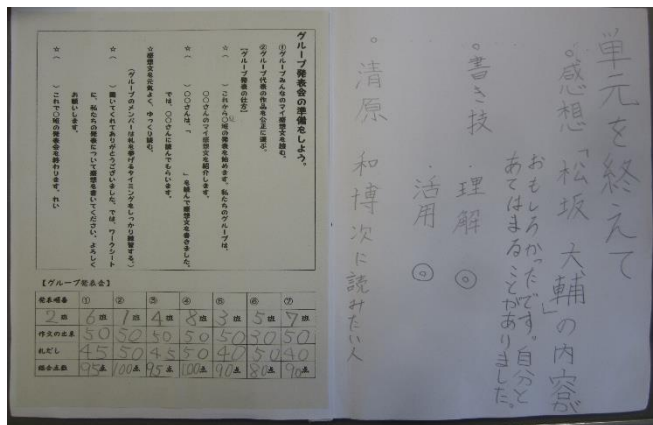
3・4時目 「手塚治虫」を読み、『すごい』
と思う事実を見付けよう。」



5時目 「手塚治虫」の感想文



6時目 学習読書をしていた伝記で
マイ感想文を書く



7時目 マイ感想文のグループ発表会



8時目 クラスみんなのマイ感想文が
綴られたマイ感想文集

イ 授業の考察

評価テストとその結果

大問 1 文章を読んで、自分の考えを書くために、モデル感想文を参考にして「書き技」を見付けることができる。

「手塚治虫」を読んで、五年さがA子。マンガの世界を歩き続けた手塚治虫。六十年という短い時間の中で、多くの名作マンガを残した治虫は、とても情熱的な人だったと思う。一番印象に残っているのは、大学生のときに、医学とマンガの両立に悩んだときのエピソードだ。相談した母からどっちが好きなのと聞かれ、治虫は迷わず、「もちろんまんがです」と答えている。私だったら、かなり勉強して入った医学部をそんな簡単にはやめることはできないと思う。母親の心の広さはもちろん、治虫のマンガへの思いの強さに驚いた。今の私にそんなに情熱を持てるものがあるだろうか。残念ながら、ぱっと思いつくものもない。でも、いずれは治虫のよ

かけて打ち込める自分でありたいと思う。

20×20

○上に書いてある「手塚治虫」の感想文を読んで設問に答えましょう。

①この文章は常体で書かれていますか。敬体で書かれていますか。ハ

②「手塚治虫」のことをどんな人と表現しているでしょうか。ハ

③「手塚治虫」と自分を結び付けている一文を抜き出して書きましょう。

④引用されている部分を書きめきましょう。

⑤「手塚治虫」を読んで、これからどうありたいと書いていますか？

20×20

資料1 評価テスト 大問1

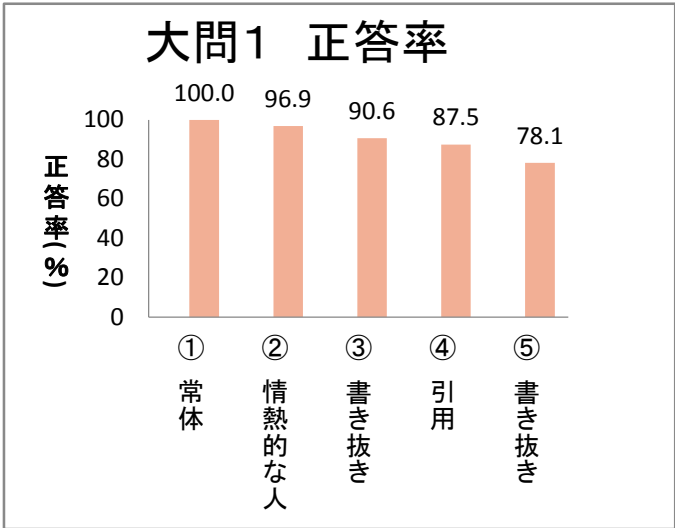
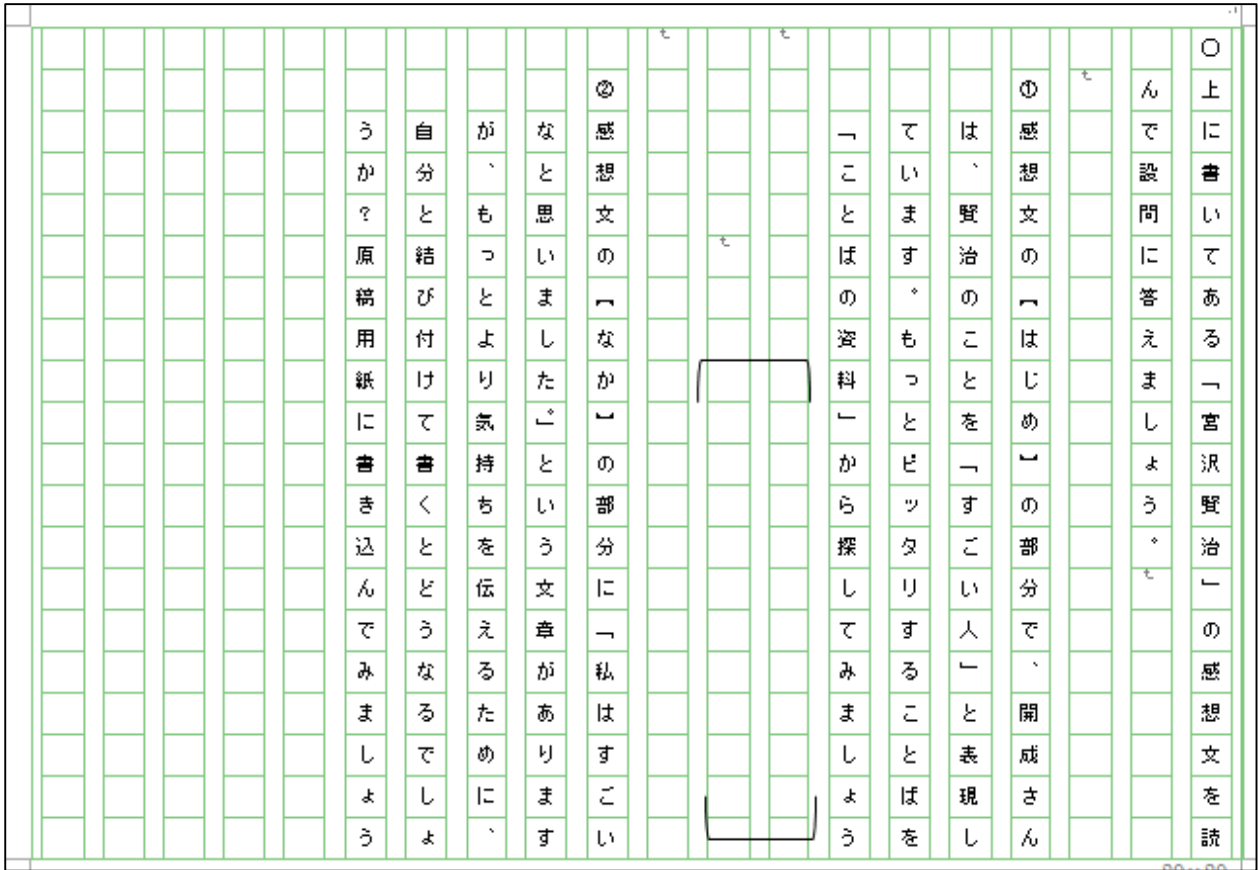


図1 評価テスト大問1の正答率と考察

大問1では、グループでモデル感想文から「書き技」を見付け、それを手掛かりに「手塚治虫」の感想文を書いた場面を再現しました。①～⑤とも70%以上の正答率でした。グループで「書き技」を見付け、「書き技」を参考に感想文を書き、更にグループ発表の前に①～⑤の視点で、互いの感想文を読み合った一連の学習から、「書き技」を通した感想文の書き方の理解は深まっていると推測されます。

大問2 **学習で学んだ「書き技」を自分の「書き技」として、活用することができる。**

	賢治に近づけるかもしれませぬ。	になりたと思います。そうすれば、少しは	分ができること。をきちんとしてやれば、人	私は、賢治のまねはできないけど、今、自	も	も	も	も	は、すごいなと思いましたが。	米とみそ汁、野菜ぐらいだったそうです。私	みれになるまで働きました。食べるものは玄	朝は暗いうちから起きて、夜遅くまでどろま	賢治は教師を辞めた後、自ら農民となっ	きないすごい人だったと思います。	の生き方を知ると、とうてい自分にはまねで	うと努力を続けた人こそ宮沢賢治です。賢治	自分理想とする生き方に少しでも近付	五年佐賀B子	「宮沢賢治」を読んで
20×20.																			



資料2 評価テスト 大問2

大問2①の結果と考察

すごい人	48%
太陽のような人 (本文から引用)	15%
がんばりや	13%
無回答	3%
その他	21%

表1 事前テストでの〇〇な人

すばらしい人	18%
すぐれた人	18%
尊敬すべき人	12%
努力を続けた人	9%
才能のある人	6%
正直な人	6%
まじめな人	6%
りっぱな人	6%
熱心な人	3%
まっすぐな人	3%
その他	13%

表2 評価テストでの〇〇な人

なぜ、そのように思いましたか？

- ずっと努力をしている人だから。
- 自分にはまねできない立派な人だから。
- まねできないから、尊敬する。
- 1日中ずっと働いていたから。
- 自分の夢に向かっているから
- かしこくて、よい人だから。

表3 ①で〇〇な人と考えた理由

大問2①では、事前テストで「すごい人」と漠然と記述していた児童が、「ずっと努力をしている人だから」「自分には真似できない立派な人だから」などと根拠をもって「素晴らしい人」「尊敬すべき人」と記入することができていました。伝記に書かれている事実描写に合う適切な言葉（「ぴったり合う言葉」）を選び、語彙を増やそうとしたことが分かります。

大問2②の結果と考察

自分と結び付けて書くための視点	評価テスト
ア 自分は、～と思う。・・・自分と似ている・違う・同じという心情面での視点で記述している。	33%
イ 自分だったら、～する。・・・具体的にどのように行動するのかという視点で記述している。	94%
ウ 自分は、～をまねしたい。・・・生き方から学んだことを記述している。	22%

表4 大問2-②「自分と結び付けて書くようになるか」の結果（複数解答）

事前調査において、自分と結び付けて書くことができた児童は18%しかいませんでした。大問2②では、自分と結び付けて書くことができた児童は94%でした。自分と結び付けて書くための視点に沿って、記述の内容をみます。

ア「自分は～と思う。」という視点では、「もし、ぼくだったら自分を苦しめて人のためにしようという気持ちはあまりないと思います。」「わたしだったら、どうていできないと思います。」など、自分の生活や経験と結び付けて感想を記述していました。

イ「自分だったら、～する。」という視点では、ほぼ全員が記述できており、「私だったら農民どころか教師もやめないと思います。」など、宮沢賢治の行動に対して、自分が同じ立場だったらどうするのかを具体的に記述していました。

ウ「自分は、～をまねしたい。」という視点では、「賢治が農民のために、人生をかける生き方をしたことによってびっくりしました。」など、「人のために自分が苦しんでも・・・」と、宮沢賢治の生き方に触れ、自分だったらどうするか・自分の思い・考えを記述していました。

このようなことから、自分との共通点や相違点を挙げるだけでなく、自分と結び付けて書く視点を基に、対象人物の生き方や考え方に気付き、自分の考えをより明確にもつことができるようになってきたように思われます。

単元終了時の振り返りのアンケート

あなたは、「伝記を読んで『すごい』を伝えよう」の学習を通して、以下のことは分かるように（できるように）なりましたか。自分のことをふりかえって答えましょう。

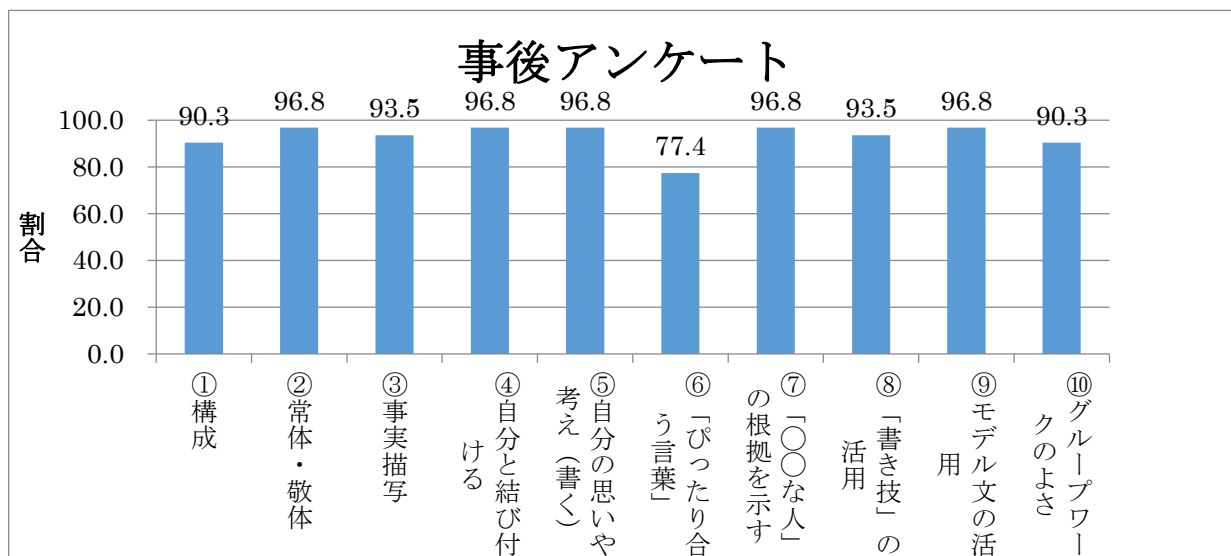


図1 単元終了時の振り返りアンケート

学習後の児童の自己評価を見ると、10の項目全てにおいて、多くの児童が「分かる(できる)」と自覚しています。モデル感想文を参考にした「書き技」の有用性については、93.5%の児童が有用性を感じています。分かる(できる)ようになったことの自由記述においては、以下のような内容が多く見られました。

- ・感想文がすらすら書けるようになった。
- ・感想文は苦手だったけど、少しだけ好きになった。
- ・マイ感想文を書けるようになったので、どんな時でも書けるような気がする。
- ・自分の文章を書いて、自分の書くスピードや書き方が分かった。
- ・自分の考えを書くのが苦手だったが、人物と自分を結び合わせて考えることができるようになった。

「ぴったり合う言葉」を選ぶことについては、77.4%の児童ができるようになったと答えています。今後も引き続き「ことばの資料」や国語辞典を日常的に活用させ、語彙を広げさせていきたいと考えています。

「手塚治虫」の感想文とマイ感想文の比較

モデル感想文を参考にして最初に書いた「手塚治虫」の感想文と、学習読書をした伝記のマイ感想文に使われた「書き技」を比較してみました。本単元では、「引用」することは、全員には、望まなかったのですが、「書き技」の一つとして比較の対象としました。

- 1 原稿用紙1枚程度で書くことができるか。
- 2 常体か敬体か、揃えることができるか。
- 3 「はじめ」「なか」「おわり」の構成になっているか。
 - ① 「はじめ」には、人物を〇〇な人と表すことができるか。
 - ② 「なか」には、自分と結び付けて、「自分だったら・・・」や似ている点などを書くことができるか。
 - ③ 「おわり」には、人物から学んだことや真似したいことなどを書くことができるか。
- ※4 引用を正しく使うことができるか。

手塚治虫感想文とマイ感想文の比較 (書き技を使っているか)

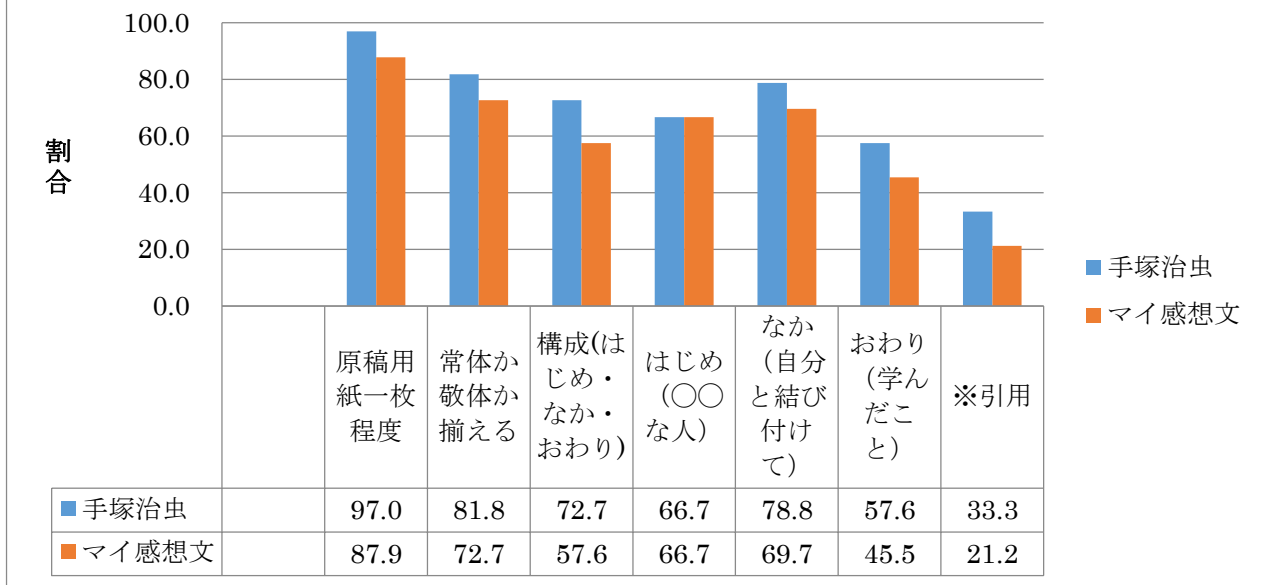


図2 手塚治虫感想文とマイ感想文の比較

「手塚治虫」の感想文では、スモールステップで学習活動を仕組んだことで、モデル感想文を参考に書き技を使うことができていました。互いに読み合って修正をしたりしながら、書き技について理解できたものと思われます。マイ感想文では、限られた時間の中で、大変意欲的に書き進める様子は見られました。10%前後の書き技の使用率は低くなったものの、ほとんどの児童が、最後まで自力で書き上げることができました。学習読書をした伝記の対象人物を表す言葉については、「貧しい人や苦しむ人たちのために生きた人」「看護のために人生を捧げた人」「サッカーのために全てを注いだ人」など、一つの単語だけではなく、「ぴったり合う言葉」を自分で選び、組み合わせて書くことができた児童もいました。

ウ 成果と課題

実践校においては、学習状況調査の結果から、以下のように課題を焦点化し、具体的な手立てを考え、授業実践に取り組みました。

○実践校における課題の焦点化

「記述式の問題に無解答が多いこと」

「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」



○課題の解決に向けて必要な力

「求められた様式に合わせて書く力」

「文章を読んで自分の考えを書く力」



○課題の解決に向けた具体的な手立て

- [手立て1] 「宮沢賢治」のモデル感想文を提示し、「書き技」を見付け、参考にさせる。
- [手立て2] 自分の考えを書くことへの抵抗を減らすために、スモールステップで手立てを打つ。
- ・「宮沢賢治」のモデル感想文での学びをマイ感想文につなげる。
 - ・読み取りの視点(『すごい』を見付ける視点)と、感想をもたせるための視点(自分と結び付ける視点)を明確にさせる。
 - ・語彙を広げるために、「ことばの資料」を活用させる。
- [手立て3] 単元を通した言語活動として、「モデル感想文を参考にしてマイ感想文を書こう」を位置付け、学習読書を促す。
- [手立て4] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、一人学びとグループ学びを設定する。
- [手立て5] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。

【成果】

- [手立て1] 単元の導入で、付けたい力を明確にした「宮沢賢治」のモデル感想文を提示したことは効果的でした。グループごとに5つのモデル感想文から見付けた書き技をクラス全体のものとしてまとめることで、「書き技」の共有化を図ることができ、伝記を読んで、感想文の書き方を知ることができたようです。
- [手立て2] スモールステップで手立てをとったことで、読み取りの視点と感想をもたせる視点が明確となり、「自分と結び付ける」とはどうすることなのか理解できたようです。一つ一つの活動の目的と方法が分かりやすく、児童が自分の考えを書く意欲をもち、その意欲を持続して書き進められたと思われます。
- [手立て3] 単元に入る前より、学習読書の環境を整えたことで、マイ感想文への期待が高まっていったようです。感想文を書くという学習課題をもって、マイ感想文に向かって単元を通し見通しをもち、主体的な活動ができていました。
- [手立て4] 単元を通して、一人学びとグループ学びの場を意図的に取り入れたことで、対象人物に対する自分と友達を感じ方や考え方の違いを知ることができていました。

【課題】

- [手立て5] 「学習を通して分かったこと」と「できるようになったこと」の視点で振り返りをさせたことで自分の力をメタ認知するようになりました。しかし、グループ学びでの相互評価をすることや、評価テストの内容も含めて、身についた力と自信が次の学習に行かせるよりよい手立てを考える必要があると思います。評価の在り方も含めて、次年度への課題としたいと考えています。